

第 3 回
新市建設計画策定検討小委員会
会議録

開会 平成 16 年 5 月 28 日 (金)

閉会 平成 16 年 5 月 28 日 (金)

那賀 5 町合併協議会

第3回新市建設計画策定検討小委員会索引	
付 議 議 件 名	頁 数
1．開 会	1
2．委員長あいさつ	〃
3．会議録署名委員の指名	〃
4．報告事項	
・ 前回小委員会での意見及びその対応状況について	1
5．協議事項	
○ 新市建設計画基本構想（案）について	3
6．その他	
次回開催日等について	3 3
7．閉会	〃

第 3 回新市建設計画策定検討小委員会会議録			
開催年月日	平成 1 6 年 5 月 2 8 日（金）		
開催場所	桃山町保健福祉センター　2 階　ピーチホール		
開会及び閉会時間	開会　　午後 3 時 0 0 分	閉会　　午後 5 時 1 5 分	
会議録署名委員	岡　田　邦　夫	武　部　善　次	
議　長	丸　井　幸　次		
出席並びに欠席委員 出席　　　9 名 欠席　　　1 名 凡例 ○ 出席 × 欠席	委　員　氏　名		出欠
	委　員　長	丸　井　幸　次	○
	副委員長	上　野　富　一	○
	委　員	藤　永　知　宏	○
	委　員	増　田　敏　郎	×
	委　員	千　田　　　弘	○
	委　員	武　部　善　次	○
	委　員	松　井　信　雄	○
	委　員	岡　田　邦　夫	○
	委　員	宇　田　　　寛	○
	委　員	河　上　泰　三	○
	合併協議会 事務局	事　務　局　長	黒　田　敏　弘
事務局次長		奥　谷　敏　夫	
事務局参与		小　島　　　大	
総　務　課　長		栗　山　房　大	
調　整　課　長		狹　間　秋　友	
計　画　課　長		岩　坪　純　司	
計　画　課　長　補　佐		杉　本　　　太	
総　務　課　長　補　佐		半　田　雅　巳	
総　務　課　長　補　佐		乾　　　浩　二	
総　務　課　長　補　佐		栗　本　宗　彦	
総　務　課　係　長		中　村　　　健	
会議の経過		別紙のとおり	

事務局 (計画課長 岩坪純司)	みなさんこんにちは。協議会でお疲れのところ大変恐縮でございますけれども、ご案内のとおりただ今から第3回新市建設計画策定検討小委員会を開催させていただきます。なお前回タウンウォッチングでは長時間になりましたが、ご苦労様でございました。それでは委員長よりお願いいたします。
議長 (丸井幸次)	それでは本当にお疲れのところ、引き続きまして第3回の新市建設計画策定検討小委員会を開催いたします。では、ただ今から会議に入させていただきます。 本日の協議事項は第2回小委員会において配布させていただきました新市建設計画基本構想案を中心に協議をお願いしたいと存じます。また報告事項、協議事項について議事がスムーズに進行できますよう委員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。 では、早速でありますが会議次第に従いまして進めさせていただきます。なお本日の出席委員は9名であります。小委員会規程第5条第2項の規定の3分の2以上の委員の出席がございますので、本日の会議は成立しておりますことをまずもってご報告いたします。なお、増田委員より欠席の旨ご連絡をいただいておりますので併せてご報告いたします。 引き続きまして会議次第第3番の本日の会議の会議録署名委員を指名させていただきます。那賀町の岡田委員、貴志川町の武部委員、以上の委員さんをお願いしたいと存じますのでよろしくお願いいたします。 それでは次の会議次第第4番の報告事項に移らせていただきます。前回小委員会での意見及びその対応状況について事務局からの説明を求めます。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、失礼いたします。お手元の会議資料の3ページをご覧ください。平成16年5月18日に開催されました第2回小委員会で委員の皆様から出されました意見等につきましては、3ページにとりまとめてございます。説明させていただきます。 ご意見は地域の将来像、地域の特性、課題、問題点を提示させていただいたことに対し出されたものでございます。ご意見を大別しますと、ゴミ処理問題、農業問題、教育健康問題の3項目になるかと思えます。まずゴミ処理問題につきましては、8名の委員の皆様からご意見をいただいております。今後計画書を策定する上で、大変貴重な提言であったかと考えます。生ゴミの堆肥化、環境循環型社会への形成、それから緊急課題であります処理施設の建設など、多くの意見をいただいております。次に農業問題であります、農業従事者が高齢しているというような状況で、それに対する助成、農業施策に対する行政の姿勢、大学との連携といったご意見をいただいております。最後に上野委員から出された意見であります、申しわけございません誤字がありますので訂正をお願いしたいと思います。最後から2行目の公式協議ということで

	競技会の競技の誤りでございます。大変失礼いたしました。桃山で建設が進められている競技場への期待と共に新市の施設としての位置づけについてのご意見をいただいております。以上、委員の皆様から出された内容についての報告を終わらせていただきます。
議長 (丸井幸次)	はい、ただ今説明がありました報告事項、前回小委員会での意見及びその対応状況について委員の皆様何かご意見ございませんか。はい、どうぞ。
委員 (河上泰三)	すいません、河上です。教育問題のところで私の発言なんですけど、様々な大学を誘致することも考えていってもよいのではないのでしょうかってというのは頭に記憶にないので抹消できるんでしたら。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、付け加えさせていただき大変失礼いたしました。
委員 (河上泰三)	誘致多分難しいと思いますんで、いかに既存の施設との産・官・学の連携が必要やということを強く言いたいのでもしも訂正できればですけど、お願いいたします。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	申しわけございません、訂正をさせていただきます。
議長 (丸井幸次)	今、河上委員さんからありましたとおり、そういう意味ではっていうところから、様々な大学を誘致することも考えていってよいのではないのでしょうかという意見を削除させていただいてよろしいですか。
委員一同	「異議なし。」の声あり。
議長 (丸井幸次)	はい、この報告から削除させていただきます。他に何かご意見ございませんか。特にご意見がないようでございますので、前回の会議内容はこれでご確認いただけたと考えます。 次に本論であります、協議事項に移らせていただきます。新市建設計画基本構想案についてであります、前回小委員会で事務局より計画書の構成、内容についてあらかじめ説明をいただいております。計画書の構成について一部変更したい旨の提案があったので、この点からご検討をお願いしたいと思います。再度事務局の方からご説明をいただきたいと思います。
事務局 (計画課長)	前回２回目の小委員会の中で、一部基本構成のあり方が、計画を策定する上でこういうことを入れたらうまく計画書が展開できるのではない

岩坪純司)	かということでご説明させていただきました。お手元に資料というような形で那賀5町新市建設計画基本構成案、新旧対照表とA4の横ですね変わっているところ波線入れてある、対照表をつけさせていただいてるかと思いますけども、波線のところが第1回の、申しわけございません、第2回の合併協議会でご確認いただいたものです。これを今申し上げたように、波線の部分に変えて現在とりまとめしておりますので、第1章序論の1の合併の必要性和効果この3ですね、3のところに住民の意識と計画課題
議長 (丸井幸次)	ちょっと課長待っちゃって。資料わかりますか。これです。わかります。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	今日テーブルの上に置かせていただいています。申しわけございません。ございますでしょうか。
議長 (丸井幸次)	ありますか、わかりましたか。これです。資料、番号打ってあげてくれたらよかったのにな。ありました。それです。いいですか。はい、どうぞ。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、それで3のですね住民意識と計画課題、これを入れた経過なんですけども住民意識調査の実施を受けて住民ニーズ、新市に対する期待と効果を明確にすると共に小委員会の皆様、それから策定会議のメンバーから出された地域の課題でありますとか問題点をここに集約しまして第2章の基本構想に反映させていきたいということで、この項目を追加させていただいております。それから変更前ということで3です。那賀5町の概況としてあったものを新市の概況に置き換えております。それと変更ではありませんけども第2章の基本構想の中の新市発展プロジェクトここで1,2ということでいきいき人・まちプロジェクト、きらき土・水・緑プロジェクト、この項目をたたき案の中で挙げておりますので、これも追加というような形でご理解いただきたいと思います。変更点は以上でございます。
議長 (丸井幸次)	はい、ただ今事務局から説明いただきました基本構成の変更について何かご意見等ございませんか。 ないですか。ご意見が特にないようでございますので変更した形で計画書の内容を協議していくということでよろしいでしょうか。また、会議資料5ページ1の全体的なとりまとめ方についてはこのような形で考えていきたいと思いますがいかがでしょうか。
事務局 (計画課長)	変更した形で全体をとりまとめていくとこういうことでございます。

岩坪純司)
議長
(丸井幸次)

ご異議ございませんか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。また会議資料の5ページ、6ページの2の個別項目についての意見集約表をつけさせていただいていますが、ここで出されたご意見によっても構成内容が変わってくると思いますので、その点もお含みいただきたいと思います。

では、次に個別項目についてのご協議をお願いいたします。委員の皆様方におかれましては、すでにたたき案に目を通していただいているかと思えます。また委員の皆様や策定会議の皆さんから出された合併による将来像、各地域のあり方についてのご意見も参考にいただきご意見をいただきたいと思います。なお、最終の住民意識調査の結果はまだ出ていませんが、中間数値としてお示ししたとおりであります。大体の方向性が見えてきましたので、これも念頭に置いて頂きまして個々の項目についてご意見をいただきたいと思います。わかりにくい点等がありましたら事務局に質問いただけたらと思います。

まず、始めに第1章序論、合併の必要性和効果についてはいかがでしょうか。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

議長、よろしいですか。1章の序論のところなんですけども、これも協議が当然いってくるわけでございます。これにですねかなり時間を費やしますと後の本論であります構想のところのお話ができにくいかと思えますので、私の方から序論のところで一部変更等考えられるような箇所が多々ありますので、それについて先にご報告してですねそれで色々ご協議いただきたいと思います。よろしゅうございますか。

議長
(丸井幸次)
事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい、結構です。

それでは3ページの合併の必要性和効果、それと後の策定方針、新市の概況をさーっと流して説明させていただきたいと思います。3ページの合併の必要性的効果の中の合併の必要性ということで、3ページですね3, 4, 5, という風な中でとりまとめておりますので、ご説明いたしたいと思います。

まず始めに合併の必要性であります。これについては総論という形で那賀5町が昭和の合併によって誕生したということをまず挙げさせていただきまして、以後地方自治体を取り巻く課題が増大しているという課題の認識、それと5町の結びつきを掲載させていただいてそれを的確に推進するというような中で合併があるという風な書き出しで必要性をうたっております。それから個々の項目でございますけれども、これを1番から4番にとりまとめてございます。人々の暮らしにあわせた行政権の形成、それと社会と経済の変化への対応、それから3つ目といたしまして新たな行政課題の解決、4番行財政力の自立性向上とこの4点

にまとめさせていただいてます。冒頭の2行目なんですけども、昭和30年または31年に誕生したというような記載がございます。これについても若干変更が必要かなと思います。というのは桃山町につきましては、昭和32年に細野村の一部を編入して現在の状況になっておることがございますので、この年代的なものを再度修正を加えていきたいと思います。

それから1番の人々の暮らしにあわせた行政権の形成、ここの4行目ですか、4行目就業だけでなく買い物、娯楽、文化、学習活動等においても町外で行うことが珍しくなくなってきたと、こういう町外で行うことが珍しくなってきたというこの表現もう一つよくわからないんで、そこを交通基盤の整備やモータリゼーションの発達に伴い日常生活圏が拡大しております、またこのような形で文章をつなげることによってよく理解できるかという風に考えます。それから は少子高齢化今の現状を書いてございます。これについても現状はこうです。今後少子高齢化が更に進んでいくという記載がございませんのでその点についても記載をしていきたいと考えます。後、細かな文章表現等まずいところがございますので、これに付きましては事務局の方で再度チェックしまして変更をかけていきたいと考えております。

それから3点目なんですけども、3点目については冒頭の中でも地球環境問題の解決こういう風なことが今後行政の中で取り組んでいかなければならない施策になってきますので、これらを再度ここで挙げさせていただいて必要性があるということをやうたっていきたいというように考えます。

それから4点目でございます。4点目については地方分権それと三位一体の改革というのが今後更に進められるということで、自治体は責任を持った行政運営をしていかならんということがございますので、それらの点、それから行政の効率化こういう事をとりまとめてございます。3ページ、4ページ、5ページについては以上でございます。

それから続きまして6ページ、7ページでございます。6ページ、7ページにつきましては那賀5町合併によって期待される効果ということで1番から4番の項目を挙げております。1番については地域課題の一体的解決、生活ニーズの対応、高度な行政サービスの提供、4といたしまして自立的で個性豊かな創造とこの4項目をいれております。通常期待される効果というような形で住民説明会でも説明しておりますのは、行政サービスの向上でありますとか効果的、一体的なまづくりができるとか、行財政の効率化と基盤強化が図れるとかこういう事をパンフレットで住民の皆様方にご報告しております。これを更に地域の課題というようなものも入れて4点にとりまとめてございます。それと、参考資料としましてお手元に合併により期待される効果と那賀5町において予想される合併の効果ですね、こういう参考資料もつけてございます。もし、よろしければ見ていただいたらよろしいかと思います。これはあくまで

も参考資料として下さい。

そういう風なことで今申し上げた効果、通常想定される効果とそれと5町が地域的に期待できる効果とこういうことを文章表現しておりますので、これについてももう一度見直しましてチェックをかけていきたいと考えます。ただのところが幾分1と3のところの内容がちょっとだぶってるかと思しますので、これについては修正する必要があるんじゃないのかなと考えます。

それから8ページは追加項目ということで現在、調査中というようなことで書いております。これにつきましては住民意識調査からどのような項目を入れていくということを考えていただきたいと。例えば住民意識調査の問4-2で各町がもっとしっかりやっていただきたい行政分野であるとか、問7合併に対する期待、問8合併に対する不安、問9合併によるまちの姿、将来像ですね。このような項目の集計が6月中にはあがってきますのでこれらの文章表現を入れてここに住民の意識というような項目で載せていきたいと考えております。それと新市の全体の課題ということで問題点、地域の特性も含め先の小委員会の中でご検討、ご意見いただきました、個々の町の課題を挙げていくということは難しいかと思えますけどもそれらもある程度は付け加えていきたいなということを考えています。

ちょっとはしりますけども9ページでございます。9ページにつきましては策定の方針ということで挙げさせていただいております。ここでも間違いがありますのでそれを先にご報告します。この計画書の一番始めの文章なんですけれども、第5条第2項の規定に基づいて作成するということを書いておりますけども、第5条第1項の誤りでございます。これはもう明らかに間違いでございます。それと、2期間ですね。期間、この計画の期間は合併初年度を開始とし、おおむね10カ年としますとこういうような文章表現で書いております。合併の期日ということで今後の協議会で何月何日というような明確な合併期日が出てきますので、これに合わして具体的に年度を入れ変更をかけていきたいという風に考えます。それから策定の方針につきましては、新市建設計画策定方針に基づいてそれを具体的に記入したもので大きく変更はしておりません。

それから10ページの新市の概況です。このところも一部修正あります。例えば、和泉葛城山脈という風な、これもずっときておるんですけども和泉山脈の間違いでございます。葛城山脈というのはございませんので。和泉山脈というような形で全てのところを変えていきたいと考えます。

それから11ページです。11ページにつきましては交通というような項目を入れております。それから地図につきましては岩出町も入った形であります。これは任意の合併協の時に作った資料をそのままつけてございますので、これもよりわかりやすく変えていきたいというように考えます。

それから人口、１２ページの人口です。人口につきましても数字の間違いがございます。上から４行目ですか０歳から１４歳以上の人口１５．９％で和歌山県平均１５．９％になってるのが１４．９％の誤りでございます。それとその下の行なんですけども、また６５歳以上の人口は２０．５％で県平均２１．２％より０．６ポイント低くなっておるというように書いてございますが、０．７ポイントの誤りでございます。ここでは例えば人口だけしか書いてございせんけれども、今後核家族化という状況が非常に明確になってきておるという中で、人口に世帯を入れていってはどうかと、私個人的には考えております。それと最後の５行ですね、従業者の通勤状況であるとか、買い物、この部分はもう一つ入れていく必要はないんじゃないかなという風には考えます。もし入れていくとしましてもここで一番最後に書いてございます、平成１４年度市町村合併住民意識調査というので、これが任協の時に調査した項目でございますので、現在那賀５町住民意識調査が集約中でございますけれども、問２の設問に主な通勤先であるとか、買い物どこですのよとそういう風な設問もありますので、もし入れていくとしたら新しい今の住民意識調査の内容を入れていきたいというように考えます。それと、文章表現だけでは見にくいきらいがありますので、表ですね、例えば昭和５５年からの状況を書いてございますので、昭和５５年からの各町の状況をグラフというか、表にした形で入れていけばより見やすくなるかと思えます。それと４の土地利用であります。土地利用につきましても、平成１４年の固定資産の概要調書の数字が書かれております。当然平成１５年の概要調書の数字がございましてこれにつきましても平成１５年の概要調書の数字に置き換えて変更をかけていきたいと考えています。

それから１３ページでございます。１３ページにつきましては各町の状況ということで、打田から貴志川の今までの経過を書いてございます。文章的には足りないところもありますので、これについても再度チェックをかけまして修正すべきところは修正していきたいという風に考えます。

それと１４ページの下、かなり余白がございましてこれもお手元に置かしていただけてます、那賀５町の変遷という変遷図をおかしていただけておるかと思えます。入れる、入れやんはまたご協議いただきたいというふうに思います。空白がありますので、明治２２年１２月の市制町村制施行の旧の村ですね、村の状況から現在の町がこういう風に変わってきてると、このような状況の変遷図をつけていけば町がどうして誕生したかというようなこともよく理解できるかと思えますので、提案というような形で協議をお願いしたいと思えます。以上です。

議長
(丸井幸次)

はい。ご苦労さんでございます。今事務局の方からこの序論について説明をしていただきました。訂正していくところはしていくっていうこと

委員 (藤永知宏)	で説明いただいております。ここについて何か今事務局から説明がありました以外に、何かご意見なりご質問はございませんか。はい、どうぞ。 打田の藤永です。今までである程度また修正していただくということで、各表、グラフも入れてくれるのかなと思うんですが11ページの交通のところですね。私和歌山線をしょっちゅう利用してますんで、特に気付くんですが、粉河と名手間はこういう状況かと思うんですが、これと歌山市方面ではもう少し本数が多いんで、特に不便なような形を強調してるのかなという風な気もしますんで、その辺朝、夕はもう4本ぐらい走る時もありますし、中間は1時間に2本ずつ走ってますんで、そういう点もより精密に入れてもらえたらありがたいなと思います。以上です。
事務局 (計 画 課 長 岩坪純司) 議長 (丸井幸次) 委員 (藤永知宏) 議長 (丸井幸次)	はい、ご意見いただきましたことは検討させていただきまして、文章的には変えていきたいという風に考えます。 藤永委員、それでよろしございますか。 はい。 他にご意見ございませんか。ないですか、ございませんか。はい、ありがとうございます。わかりました。では次の説明していただけますか。
事務局 (計 画 課 長 岩坪純司) 議長 (丸井幸次)	はい、そしたらこれ今お手元に置かしていただいております変遷図とかはこれはもうつけさせていただいていいというような判断でよろしいですか。 この変遷つけさせていただいてよろしいですね。はい。 はい、どうぞ。
事務局 (計 画 課 長 岩坪純司)	はい、そしたら続きましてここからは本論に入ってきますんで、委員皆様の忌憚のない意見を頂戴したいという風に考えます。17ページのところです。新市建設の基本方針ということで住民意識調査の結果が出ていない中で作ったものでございますので、ちょっと住民意識調査の結果を待たないとその背景が非常に書きづらいということもあります。中間報告の中では問9で新市の将来像をどうしていったらいいですかという設問を設けております。ここでちょっと意外であったのが、通常健康づくりであるとか、自然環境、それから住環境の整備ですね、こういうところは当然上位に入ってくると私も考えてたんですけども、なんとまあ一番多かったのが災害、犯罪、交通事故ということでこれが32.7%というような高い数字になってございます。災害につきましては南

	海地震であるとか、東南海地震ですね、そのようなことを懸念されてい ると、その施策をしっかりとやって下さいというようなことが現れてきて るのではないのかなという風に分析はしてます。また、犯罪についても 非常に都市化が進む中で犯罪件数も増えてきてると、こういうことに対 してもしっかりと施策として取り入れていただきたいというような 住民の意向であるかと思います。ここの背景の中で書いてございませ うが、今申し上げたように健康であるとか、自然、文化ですね、という 風なところを想定しまして書いてございませうのでその辺の修正は行いた いと考えます。それと理念がもう一つインパクトが薄いというように考 えます。ここで推測以下「また」からの文章なんですけど端的に申し上げ ましたら、少子高齢化の進行により、人口構造が変わってきてます。 だからいかに産業を活性化させて人を減らさんように活力ある地域にし ましようということしか、ここに書いてございませうのもう一つ 非常にインパクトが小さいなという風に思います。また建設っていうん ですか、新市の建設の方法ももう一つ見えてきていないということも私 ども認識しております。それと、県下的な位置づけですね、5町が合併 しますと7万人という非常に大きい地域になります。この地域を県のど ういうような位置づけにしていくかもここでは書いていかないかんとい うように考えます。それと特性ですね、いいところもここでうたって、 そのいいところを更に進化させていくということも必要でありますの で、2回の協議会の中でもお示ししましたように豊かな自然であるとか、 地理的条件がいいとか、農業のところはちょっと書かれておりますけど も、農業のことを十分活かせるような項目を理念としてとりまとめて書 いていく必要があるのではないのかなというように思います。委員さん の中で意見がございましたらどんどんお出しいただきたいと考えます。 以上です。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。今事務局から新市の建設の理念と将来 像の背景について一部訂正をしていきたいというご意見でございます。 私も特に「また」から以降もう少しこう住民の皆さんに期待の持てるよ うなやはり文言っていうのも入れていくべきかなとこのように考えま す。特にこの5町は和歌山県の県都である和歌山市と接しているところ であります。和歌山県の中のこの新市がどのような位置づけになるか、 なっていくべきだとこの住民意識調査の中もふまえて、考えていくべき ではないかなとこのように私自身も考えておりますけどけれども、委員 の皆さんで何かご意見ございましたらご拝聴したいと思っておりますのでよ しくお願い申し上げます。何かございませんか。 河上委員何かないですか。
委員 (河上泰三)	夢のある文章っていうとかなり知恵を皆さん振り絞って。

議長 (丸井幸次)	本当に新しいまちを作っていくんだから今までみたいなそういうまちづくり的な、まあ基本構想ですからその実現するには20年かかるか30年かかるかはわかりませんが、こんなまちにしていこうというのが一番大事になってくると思いますんで、その辺皆さんの忌憚のないご意見を拝聴したいなと思います。背景についての表現は先ほど事務局から説明あったような形で入れさせていただきたいと若干訂正をしていきますので、また出来上がった時点でご意見をうかがいたいと思いますけれども。はい、どうぞ。
委員 (宇田寛)	中間での住民の意識調査ですね、やはり施策を重点的にどういう風に進めてほしいかという中でやはり交通の便の充実というののもかなり高い比率になってるわけですね。ここでうたわれてるのは関西国際空港の整備が予想される、京奈和自動車道などの広域交通基盤を積極的に活用して産業発展する、および農産物というようなことが書かれてるんですが、それと同時に住民がやはり便利であるような、いわゆる生活道路なり、そういうものの整備ももっと記載していくべきではなかろうかと、交通の便にしてもそういうことでうとてもうたらどうかなと思うんですけど。
議長 (丸井幸次)	はい、宇田委員言われるのは全くだと思います。この5町が合併すると要するに交通アクセスですね、5町の中でスムーズにその人が交流できるようなやっぱり道路網っていうのは考えていかなければいけないとこのように思います。そういうご意見でよろしいですね。事務局まあそういうことで。他に。上野委員何かございませんか。松井委員さん何か。岡田委員何かございませんか。ないですか。ではないようですのでこの背景については一応そういうことでしていきたいと思います。じゃ次に。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	そしたらその理念をふまえて、将来像があるわけです。理念の方でかなり入れるべきところは入れなければなりませんので、次の将来像がこれでいいかどうかの議論もしにくいかなとは思いますが。キャッチフレーズ、どこでもこういう風な形で、誰が見てもここの町はどのような基本スタンスに立っておるということでキャッチフレーズというものを作ってごさいます。各町の長期総合計画でもこのキャッチフレーズを元に町政を展開してるということでごさいます。で、委員の皆様からちょっとまだ理念の方が骨格っていうんですか、見えていない中でこのような形でお示しさせていただいてますけども、非常にこれ難しいんです、実際。作るにあたっては、自然それと人々、住民ですね、住民が一緒になって新しいまちを作っていくというようなことを想定しまして、こういう風な項目っていうんですか、キャッチフレーズを作ってごさいますので、もしこんな項目を入れていきたいと、入れていってはどうかとこういうご意見があったらどんどんお出しいただきたいなという風に思います。そ

	れと、その後の文章表現でございます。文章表現について、やり方は非常に難しいかと思えます。基本的には行政用語をあまり使わず、誰が読んでも理解しやすいというような形でとりまとめていった方がよろしいかなという風に思えます。今つけさせていただいてます文章表現かなり行政用語ですね、行政用語を使っておりません。読んでいただいたらよくわかるかと思えます。どういう事かと申しましたら、生活の状況が昔とかなり変わってる、変わってきてるということで昔であれば何もかも物がないという中で、そうした物を求めていくということから、現在は生活の質の向上というようなことになってきてると。それと環境問題ですね大変これについても重要な問題でもございますので、自然環境であるとか、地域の文化そういう風なものをこれからも育んでいかなければならんとかいうところも入れてございます。それと、行政のあり方、最後の方なんですけども、行政と住民とがパートナーシップをとって今後は行政を進めていかならんとかいう風な形で締めくくってございます。自然がありそこでの暮らしがあり、暮らしがあって住民と行政が一緒になったまちづくりが今後必要というようなことでこういう風な将来像を設けておるということでご理解いただきたいと思います。以上です。
議長 (丸井幸次)	ありがとうございます。このキャッチフレーズなんですけども自然のキャンバスに人々が美しい暮らしを描く、文化・交流創造の都市、一応案としてこういうキャッチフレーズは出てるんですけども特にこれはもっとこういう事も入れたらどうかと、もっとわかりやすくしたらどうかと、やっぱり5町の住民の人が親しみやすいキャッチフレーズですね、考えていったらどうかということも思います。これについてもし何かあれば、はい、どうぞ。
委員 (武部善次)	今キャッチフレーズの件でましたので。美しい暮らしってというのはどんな暮らしかなっていうのが私頭に一番始めに浮かんだんですけど、楽しい暮らしって言えば地域住民が色々とのふれあいの中で楽しい暮らしってというのはできると思うんです。美しい暮らしっていうたらどういふもんかなっていうのちょっと疑問に思ったんで。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、どんなことで書かしていただいたかっていうと美しいをその上にですねキャンバスって入れてあるんです。キャンバスを入れているが為に、キャンバスは当然絵を描くキャンバスですから、キャンバスにものを書いていくためにその美しいという表現にしておるんです。だからぱっと見はもう一つよく理解しにくいかなと私も思いますけども、その上のキャンバスがあつてきれいに絵を描くというようなイメージで美しい暮らしというような形に関連させているということで、こじつけになると思うんですけども。

議長 (丸井幸次)	確かにね、キャッチフレーズっていうのはわかりやすい方がいいと思うんよ。その住民の人が親しみやすいような事がええと思うんで、その点今武部委員からもお話あったんですけども、この美しい暮らしってどういう意味かなっていう、ぱっと一瞬見た段階ではそう思われたと思うんですけども。どうですか、他に何か。はい、どうぞ。
委員 (上野富一)	僕まあの3行あるんですけど、やっぱりこれ長いと思うんですよ。この中で交流・創造都市っていうのはこれからこういう5町が合併して近郊の大阪府とか岩出、市になるかもわかりませんけどそういう周りの交流っていうのはどんどんしていかなあかんで、交流・創造都市っていうのは確かに良いと思うんですけど。このもっと短く本当に自然ともっと交流のできるコンパクトにもっとまとめていただきたいなっていう感じがします。2行ぐらいにね。インパクトのあるようなやっぱり形で考えていただけたらなという風に思います。
議長 (丸井幸次) 委員 (千田弘)	はい、どうぞ。 私も皆さん言われたように、この人々が美しいっていうのを省いたところで自然のキャンパスに暮らしを描く、すでにもう誰がどういう形でっていうんじゃないしにわざわざ他の人が来て描くこともないと思うんで、武部委員言われたように美しいっていう暮らしはちょっとなんか表現的にふさわしくないんかなっていう感覚今言われて初めてちょっと気付いたんですけども、自然のキャンパスに暮らしを描く文化なになに、もうちょっと手加えた方がいいんじゃないかと思います。以上です。
議長 (丸井幸次) 委員 (岡田邦夫)	はい、ありがとうございます。他に何かご意見、どうぞ。 すいません、皆さんと大体同じような意見だと思うんですが、あんまりこうタイトルを見て字引引かんなんようなそういうタイトルじゃなくして、もっと地域の生活に密着した少子化高齢化社会っていうようなかたちの中で、もっと底辺を見つめて誰にでもわかる、当然誰にでもわかるということは理解力優れた方にも十二分にもわかると思いますので、誰にでもわかるような一つタイトルを。かというてそんならどんなタイトルするかというのは確かに難しいところあるんですが、要するにタイトル見て字引引かんなんようなそういう風なタイトルじゃなくして、もっと地域住民に密着したようなわかりやすい、そう難しく考えないタイトルを一つ考えていただけたらなと。もちろん我々も考えていき、色んな形で統一させていきたいよって思いますけど、そういうところで一つご検討お願いしたいなとかように思います。

議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。他にご意見ないですか。じゃ、事務局今みたいな形でこのキャッチフレーズ、今後、これいつまでって今日ださないかんの。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	いやいや、次回で結構です。それと、各町の職員さんの方にもこういう風なキャッチフレーズ、良いキャッチフレーズがあれば出して下さいという提言もお願いしてございますので、そこからもある程度良い意見が出てくるかと思えます。出てきた時点で委員の皆様にお示しして、それも含めてご検討していただきたいというように考えます。
議長 (丸井幸次)	はい、わかりました。今各町の職員さんに新市のまちづくりについての提言ということで、一応宿題を与えてやってもらってるわけなんですけども、その中にこれあったんやね。だからそういうことも出てきた中で再度これについては検討していきたいと思えます。それでよろしいですか。委員の皆さんも何かこれええなあというのあればまた是非言っていたら良いと思えます。そういうことでまた職員さんの提言もある中で考えていきたいと思えます。他に何かございせんか。基本的な考え方の文章表現はわかりやすくということでこのような文章表現になっております。先ほど事務局が言いましたとおり、今後のまちづくりはやはり住民の方と行政がタイアップをしたそういう自治体にしていきたいということを文言の中に入れていきたいということなんですけども。その点もどうですか。具体的にここに文章ちょっと書いてくれてあるけども、事務局もうちょっとその点について説明してあげて。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、そのパートナーシップにつきましては19ページ、20ページに主に書いてあります。これを受けて実現するための基本的な考え方というような5項目に発展させていくというように考えております。この説明に入らせていただいてよろしいですか。
議長 (丸井幸次) 事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、結構です。 19ページ、20ページであります。今申し上げたように将来像を実現するための基本的な考え方ということで、5つの項目に分類しております。今の暮らしを大切にするというのが1点です。それから地域の活力を養う、それから3つ目が交流でまちを元気にする、4番としまして人々がって書いてありますが、人々のまちづくりを担う力を養うと、5が最後に新市の総合力を発揮するとこの5点を大きく外出ししまして、基本的な考え方というような形でとらまえてございます。 具体的に申し上げます。1番につきましてはどういう風な項目を入れておるかと言いましたら、環境問題への取り組み、それと生活環境整備という事で主に下水であるとか、上水であるとかそのような整備の推進、

それと人々が理解し合い助け合うことによる安心と安全の地域社会ということで防犯でありますとか、防災こういう風なことを具体的ではなくに、文章表現をしてございます。それから生涯学習の関係、それと保健、児童福祉、学校、高齢者、障害者福祉これを文章表現で誰もが見ていただいても理解できるような文章表現でとりまとめてございます。色々その生活に関連する部門たくさんあります。これも、これもという風になってくると非常に多くなってきましたけれども、基本的には1番の中には3つに分けて今言った項目を具体的というか抽象論になりますけれども、散りばめておるということでご理解いただきたいと思います。

それと2番目のですね、地域の活力を養うということについては、暮らしを支える基本的な条件を充実するという前だしから都市基盤の整備、それと産業振興、雇用の創出とこの3点を挙げさせていただいてございます。色々書き方はあるかと思います。例えば前回の意見の中でも河上委員の方から近大生物理工学部なんですけれども、そういう風なところとの連携、農業関係なんですけれども農業の中へそういった大学機関との連携であるとか、そのようなものを入れていってはどうかなという気がします。それと住民の意識調査の中でもっとしっかりやってほしい行政分野の中で、一番多かったのが生きがいのある就職機会の状況ということで、非常にこの地域大きな工場もないし、農業はかなり集約された形でされておりますけれども、そういう雇用の創出も大事ではないんかなということでちょっとこれも難しい表現なんですけれども、スローライフの場の提供やコミュニティビジネス、もう一つこれ何のことかわからないという風に思いますけれども、難しい言葉につきましては注釈をつけることも考えていかなければならないかと思います。スローライフというのは単刀直入にお話しすれば、ゆっくりとした生活という風になってきますけれども心にゆとりのある生活、このような事でご理解いただきたいと思います。それからコミュニティビジネスとありますけれども、これにつきましては高齢者等の生活や子育ての支援、環境保全産業、経済活動支援、人材育成など地域の様々なニーズや課題に対応して住民自らが主体となって行うビジネスということで、非常に難しいかと思えますけれども、一番わかりやすく申し上げましたらタウンウォッチングで施設訪問させていただいたシルバー人材センター、そういう風なビジネスがこのコミュニティビジネスに入るんではないんかなって考えます。都市基盤については宇田委員の方からも出ました生活道路のところも当然入れていかなければならないし、今後計画されております京奈和自動車道の関係、こういう風なところは文章の中へ加えて再度修正していきたいというように考えてございます。

それから3の交流でまちを元気にするということで世代であるとか、各地域が互いに理解し、協力し合う交流社会の推進ということで地域の結びつきを強くするということが必要ではないんかなという風に考えます。合併によって5町の枠組みはなくなるわけでありまして、一

	体化とこういう風な考えの基からどここの地域という地域だけのエゴで進むのではなしに、協力し合うというような交流社会を作っていかなければならないというように考えてございます。それからこの項目の中にはめくっていただきました20ページに生涯学習の関係、情報ネットワークとかそういうところも入れさせていただいてございます。それから観光交流ということで、観光、観光資源のネットワーク化そのような事も今後施策を進める上で重要ではないんかなという風に考えます。それから中山間部につきましては農地、豊かな自然がございまして、そのようなものを活用して交流産業を起こしていきたいということを記載させていただきました。それから歴史、文化これは当然大事にしていく、今後子ども孫の世代まで継承していくという非常に重要なこととございます。それとまだ発見されてない歴史的な資産があれば、それらも当然再発見をしていかなければならないでしょうし、そうしたものを今後観光へと発展をさせていくという方向付けを書いてございます。 それから4番目が人づくりということでございます。当然行政だけではやっていけやんということで市民と行政が共同して地域を活性させていくということが今後一番重要になっていくという風に考えます。それにはボランティアの育成であるとか、NPOそうした仕組みづくりや組織への支援も必要ではないんかという項目を挙げさせていただいてございます。 それと最後に新市の総合力を発揮するということで、今まででしたら財政力も小さいということでございます。でも5町が合併しますと人口7万、それから財政もかなりな財政力になってきます。財政の運営については今後非常に難しいところもありますけれども、経費の節減であるとか、職員の専門的な能力の向上そうしたことも充分配慮した中で行っていかなければならないという風に考えます。以上ざっと考え方についてご説明をいたしました。これは抜けておるといふようなところがありましたらご指摘をいただきまして、こんな項目も入れていってはどういうような意見を頂戴できれば非常にありがたいかなという風に考えます。以上でございます。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。今事務局から考え方についての説明があったわけなんですけども、他にまだ更にこういう事を加えてはどうかというご意見がございましたら何かございませんか。はい、どうぞ。
委員 (河上泰三)	河上です。先ほども意見出ましたけども、この4番の人々がまちづくりを担う力を養うというのはこれもわかりにくいなと。これなんか市民によるまちづくりとか官と民によるまちづくりとかもう短かにうとてしてもたらいいいんじゃないですか。新市の基本構想なんで。そこら辺も目に付いたとこなんですけど。先ほど特色がなかなか少ないっていうたら皆さんに怒られるかもわからんんですけど、少ない新市なんで創意工夫の

議長 (丸井幸次) 事務局 (計画課長 岩坪純司)	町にしないといけないっておそらく前提あると思うんですけど、先ほどお話の中で産・官・学の取り組みでの新世代型のビジネスや例えば農業モデルっていうところですね、それは考えてくれてるって言うたんで期待して、そこちょっと目に付いたとこだけ発言をさせていただきます。以上です。 事務局何か、どうぞ。 はい、今河上委員がおっしゃられたようなところは付け加えたって言うたら失礼になりますけども、充分配慮した中で文章表現を変えていきたいというように考えます。それと前回上野委員から提言でいただきましたスポーツですね、その部分が若干抜けてるんかなという風に思いますので、それにつきましても例えば学校の中へ入れていくとか、スポーツ振興こういう風なところがちょっと抜けてあるかと思いますので1番のところに付け加えていきたいなということで考えてございます。
議長 (丸井幸次) 委員 (岡田邦夫)	はい、ということです。他にご意見ないですか。ないようでしたらこの考え方。どうぞ。 すいません、実はその地域の活力を養うという中ですけども、道路の新しいのじゃなくして、やっぱり産業を元にしたこれ考え方をもってると思うんですが、先ほども他の委員さんの方からもお話あったように、地域生活道、生活のその道路っていう中で果たして地域の中で生活をやってる新市、5町合併の中での一体化っていう生活道路が一つも見えないと思うんですよ。ただこうしてみたら新市の顔っていうにぎわいの場っていうのは、すなわち地域社会の交流の場やと思いますし、中山間部とかまたは京奈和自動車道等々になったらどうにも心配のところは、新市になれば紀ノ川を挟んで北部の方は大阪感覚にはいい、南部の方については和歌山市、または海南市と色んな形の中で交流残せられるようになってこの5町一体化っていうのがこの生活道で結ばれるというところが私ないような気がするんですがね。当然その計画の中には構想を描いての感覚だとは思いますが、その点はどうでしょうね。
議長 (丸井幸次) 事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい。どうぞ。 はい、岡田委員の方からご意見がありました地域の生活道ということと、5町の一体性を図るということで道路整備を入れていくというご意見でよろしいんですかね。それにつきましては当然抜けておるという風に思いますので、の各地域、地区の有機的連携というような表現をしてございますので、それについても道路も含め、文章を付け加えていくということで考えていきたいと思います。これでよろしいでしょうか。

議長 (丸井幸次)	岡田委員、それでよろしいですか。はい。他に考え方について何かご意見ございませんか。ないようですので、次に主要指標の見通しの方にいききたいと思います。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、21ページにイメージしたものをちょっとこれももう一つデザイン的にもまずいんで変えていかなければならんと思いますけれども、5つの先ほどの考え方ありました。4番と5番がひっついてということとで協働と、この協働というのは共に働いて一緒になるというようなことでよく使われる言葉なんですけどもこれが二つひっついてあとの三つに波及させていくと、それが全体となってキャッチフレーズを作っていくとこういう風なイメージであります。これについてもちょっと今たたき案ということでありますので、再度デザインのにも修正を加えた上でつけていきたいなという風に思います。
議長 (丸井幸次)	はい、それはまた事務局の方でお願いします。じゃ指標の方、指標のについて。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、2の主要指標の見通しにつきまして説明させていただいて、委員皆様のご意見を頂戴したいと思います。ここに1, 2, 3, ということで人口、世帯数、年齢、階層別人口、就業人口というようなことをつけてございますが、実際つけていただいておりますのは人口と年齢、階層別の人口だけでございます。当然世帯数が今後どういう風に変動していくか、就業人口がどのように変動していくかということは非常に大事なことであるかと思えます。その括弧書きのところにも書かせていただきますけども、現在の状況をコーホート要因法に基づきまして社会的な要因、政策的な要因がなければ今後こういうような形になっていくというような表でございます。人口で申しましたら2020年70,711人を境に以降減少になっていくというような表でございます。それから年齢別の人口につきましても平成12年度の0歳から14歳は15.9パーセントあったわけですけども、2030年には13.1パーセントということで2.8パーセントも減少すると。それから65歳以上の人口構成につきましては20.5パーセントから30.2パーセントということで9.7パーセントも上がってくるとということで大変少子高齢化が進むことがこの表でもわかるかと思えます。この指標につきましては考え方が非常に難しゅうございます。例えばその人口を維持、または増やしていこうというようなことで表を作り替えするならば、当然施策も変えていかならんし十分な協議をした中で、例えば公営住宅を積極的に進めていくとか、開発をどんどん進めていくとかそういう風なことにものなってくるかと思えますので、その点この人口フレームのあり方をどのようにしていくかということを委員の皆様にご議論いただきたいと思います。

	てございます。またこの表をそのままにして文章表現という中で施策を講じ、人口増加、それから人口を引き留めるということを盛り込んでいくやり方もあるかと思います。ただ人が減っていけば当然地域の活性化が遅れていくと、衰退するということは事実でございますのでこの見通しについては十分協議をしていただく必要があるんじゃないかなという風に考えます。以上です。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。一番ここのポイントになってくるんですけども、その人口の増減についてなんですけどもやはり基本構想なり、基本計画を作っていくにはやはりその人口の点が一番中心になってくると思います。この今のコーホート要因法ですか、このやり方でいきますと2030年つまり平成42年には67,501人、今の人口より3,000人減るという形になるんですけども、やはり人口が減っていく基本構想とか、基本計画というのはいかがなものかなって。無理やくた作らな数字ではないと思うんですけども、その点委員の皆さんどうですか。これはもう当然少子高齢化で今の14歳以下の人口見ると当然こうなってくるのは目に見えてるんですけども、そういう中でこの合併後の新市で人口増をいかに図るかということを入れていくかどうかということになると思うんです。はい、どうぞ。
委員 (宇田寛)	この5町の今の予想はこうなってるんですが、国なり県なりの動向がどうなるのか、国自身の人口が減るのか、この2030年なりの時点で減るのか増えるのかというような見通しはどうなんかなということと、それからこの5町の地理的な位置を見てみると、前半からの話では関空にも近い、京奈和もできる非常に発展する地盤のある地域なんやというてる割には人が減るということとの違いはどう解釈したらええんかなという気もするわけなんですよ。その辺がどうなんですか。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。事務局、その国とか県の動向については今のところわかりませんか。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	ちょっと手元に資料をもってございませんので、何年度を境に、何年というか2千何年を境に国の人口が減ってくるということちょっと資料ございませんので、申し訳ない。はっきりした数とか申し上げられないんですけども減ってくるということはすでに公表されてるかと思います。県についても同じような傾向になってきてると。ただ県については各都道府県に比べまして非常に少子高齢化が進んでるという状況になってるかという風に思います。
議長 (丸井幸次)	はい、また一度次回その点につきましては資料。

委員 (宇田寛)	それとね、その地理的にその5町の和歌山県でも大阪に近い非常にこれからの発展の可能性のある地域なんやっていうるわりにしたらそれなんでかいなという、もっと人が増えてもええんかいな、或いはという気もするんです。
議長 (丸井幸次)	やっぱり交通アクセスの問題でその大阪経済圏へやはり仕事に不便であるってことが第一要因かなとは思うんですけども。閑空の中にもそんなに仕事がない。ちょっとなんかあったら補足しません。
事務局 (参与 小島大)	一般的な話になって恐縮なんですけど、最近はどうでもないんですが東京一極集中と言われまして、東京一人勝ちと言われてる時代が結構長いわけなんです。大阪の経済圏あたりでも人口が減少してきているという中で、先ほどこちらの方でも説明しましたように和歌山県自身がもう前回の国調でかなり人口が減ってきて余計なことですけども、県会議員さんの定数も一人減ったというような状況であるわけで、まだ県内の中ではですね、この地域ないしは橋本の地域がなんとか人口増で踏みとどまってるという状況で、総体的に見ますとやはりこの辺は魅力のある、人の集まるという事はどういう事なと言ってしまうとお金が行き渡るところということになると、この辺はまだ農業で基礎的な収益が全体としてはあるんだろうなという風に思っております。ただこれをどううまく活用してですね、更にここで住みたい、物を作りたいという人を増やしていくかってのが今回の計画の役目の一つかとは思っております。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。今参考の意見いただいたんですけども、確かにそういうことだと思いますね。だからその為に新しいまちの基本計画ですか、基本構想なりをたてていかなければいけないと考えます。ただその人口がこのままで良いかどうかですね。むりやくた数字を作る必要はないですけども減っていくというような夢のないような。
委員 (宇田寛)	ここではコーホート要因法という方法でやるさかえにこうなるんやということなんやろうけども、それと同時に将来的に多分色んな方策をたてた中でどうなっていくんかというような、どうしたいんやとかどうあるべきなんやというようなことがあってもええんと違うかなと思うけどね。
議長 (丸井幸次) 事務局 (参与 小島大)	ちょっとどうぞ、事務局。 全くそのとおりでございましてですね、コーホート要因法っていうのはご存じの方もおられるんでなんなんですけど、ちょっと簡単に説明しますと国勢調査5年ごとに行う国勢調査の調査内容を基本に現時点におい

	て推計をするというやり方なんです。具体的に言いますと5年に一度国調やりますので平成12年、2000年の国調と1995年の平成7年の国調を比較してございます。それがそのまま伸びていけばどうなるかっていうことでおおむねは5歳刻みで集計してございますので、ある年代の女性の方がどれぐらい子供を産んでる実績があるかという出生率で大体やってございます。5年たてばその人が5歳年上いくというような形で現在の自然体で推計したのがこれになります。ですから今宇田議員がおっしゃられましたようにこういった計画っていうのは町の発展計画でございますので、そういった色んな施策をすれば当然よそから移住していただけるような方が増えてくると、ちょっと世俗な言い方ですがお父ちゃんの所得が多くなればもう一人子どもを生んでみようかというようなまた元気も出てくるとかですね、当然今度17年に国調またあるわけですが当然17年の数値と12年の数値を比較して推計すればまた違った結果が出ると思います。そのようなことで色んな施策をやっていただく事によっていわゆる期待値というのが出せるんじゃないかと思います。だから推計値と目標値っていうのがあって目標値っていうのはややもすると計画倒れに終わるっていうのが多いわけで、その間で一つの期待値という形で設定をすれば、こういう施策をすれば期待としてここは持てるというのがより現実性の高い数値として一つ人口設定ができるんじゃないかとは考えております。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。確かにおっしゃるとおりです。そういうことでやはり人口増を図るためのそういう計画を入れていけば当然この人口増やしていけるということになると思います。これについては次回までちょっと皆さん色々考えてもらいましょうか。今日はね。一番大事なことなんで人口の推移ということについては、どうですか。ここはもうちょっと慎重にやっていきたいと思ひますんでそれでよろしいですか。
委員一同	「はい。」の声あり。
議長 (丸井幸次)	じゃちょっとここで暫時休憩いたします。10分ほどすんません。時間5分で。 (休憩 午後4時25分) (再開 午後4時30分)
議長 (丸井幸次)	では休憩前に引き続き再開いたします。続きまして土地利用構想について説明をしていただきたいと思います。どうぞ。
事務局	はい、23ページの土地利用構想についてご説明いたします。整備の

(計 画 課 長 岩坪純司)	全体方向というような形で書かせていただいています。全体的な考え方でございますので例えばこの地区はこういう風な施策を盛り込んでいくというのは非常に書きづらいということもございますので、一応全体方向というような形で書いてございます。項目につきましては河川でありますとか、森林、農地、住宅地、商業地、工業用地、それと交流機能、業務機能などの集積などを図り新市にふさわしい都市核というような形で書いております。都市核というような表現をさせていただいてますけれども中心市街地の形成というような形に変更させていただいてはどうかという風に考えます。それから色々大きなプロジェクトということで京奈和自動車道というような位置づけもここでしております。それと南北道路、道路関係なんですけれども南北道路の強化、充実ということでございます。南北道路につきましては主要道としまして国道４８０号、それと府県道泉佐野打田線、それから国道４２４号、これが南北道路の主要になるかと考えます。それから山間地の交通手段の確保ということも非常に大事になってくるかと思えます。住民意識調査の中でもそういう風な多くの意見をいただいておりますので、例えば市営の循環バスでございましてとかコミュニティバス、こういう風な事も今後考えていくという必要があるかと思えます。それから最後なんですけれども景観の保全ということで開発と景観の保全というのは相反することですけれども、この景観ということも地域生活をするにあたって非常に重要ではないのかなということで入れさせていただきました。以上でございます。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。今整備の全体方向について事務局から説明があったわけなんですけれども、これについて何かご質問なり、ご意見がございませんか。はい、どうぞ。
委員 (上野富一)	今整備の全体方向ってということで出していただいたんですけれども、２番目の ぐらいの農地についてというところで、また果樹園などについては作る農業だけではなく楽しむ農業として展開も図ります。ということで出てあるんですけど、また果樹園などについては作る農業だけでなく、楽しむ農業っていうのはちょっと僕らおかしいのかなという風に思えます。この文章っていうより、できるだけ農地については都市農村の交流っていう部分を大事にしてほしいなというのがありますし、そして優良農地の保全及び耕作放棄地などの再生っていう部分においてはやっぱりため池とか水路、農道の整備とかいう部分も重要になってくると思いますので、その辺もうちょっと考えていただきたいなと思います。特に土地利用、全体方向としてはやっぱり交流できるという部分で都市農村の交流っていう部分をやっぱり入れていただければ良いと思います。また果樹園などの作る農業、楽しむ農業この部分については僕はちょっとどうかなという部分ありますのでよろしくお願いします。

議長 (丸井幸次) 事務局 (計画課長 岩坪純司) 議長 (丸井幸次)	はい、わかりました。事務局、今のご意見どうですか。 はい、ごもっともなご意見でございます。修正を加えた形でそういう風な事を盛り込んでいきたいと考えます。 そういうことで修正加えていきたいと思います。他にご意見ございませんか。ないですか。はい、どうぞ上野委員。
委員 (上野富一)	それともう一つ、工業用地について振動、騒音などの影響がないように指導行くと共に産業団地への誘致を強化しますというところなんですけど、誘致は結構なんですけどそこへやっぱり雇用促進という部分は必ず入れていただかないと、誘致をなんぼされても、企業ひっぱてきても、工場ばかりで人を雇用してくれない企業をなんぼ引っ張ってきてもやっぱり地域のためにならないので、雇用促進という部分も念頭に入れて企業誘致を図っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。
議長 (丸井幸次)	確かにごもっともな意見ですんで、事務局その点も修正加えていただけますか。はい。他にございませんか。 ないですか。ございませんか。なければ次に新都市の構造について説明をしていただきたいと思います。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、24ページ、25ページの新都市の構造でございます。ここではですね、地域をどういう風に位置づけしていくかということを考えていく上で軸であるとか、ゾーンの設定は必要というようなことで都市軸3つ、ゾーンを4ゾーンに分けて考えたことを載せさせていただいております。都市軸については東西複合軸ということで、これについては京奈和道、それからJR和歌山線、国道24号、それから他にも主要道路でございます、県道粉河加太線、同じく和歌山橋本線、広域農道橋本岩出線等も重要な路線であると考えてございますので、これらを東西の主軸というような形で位置づけをしてございます。広域的機能を果たす基幹的施設の立地を誘導するというようなことを書いてございます。これについては例えば、工場であるとか商業施設、こういう風な施設が基幹的な施設になろうかと考えます。それから南北交流軸でございます。南北交流軸につきましては国道424号と府県道泉佐野打田線これが連結してございますので、これを南北の交流軸というような形で考えていきたいという風に思います。また泉佐野打田線につきましては、京奈和自動車道打田インターチェンジというところも連結する予定でございますので、それらも含めた形で南北交流軸とこういう軸を設定していきたいという風に考えます。 それから紀ノ川、貴志川シンボル軸という風に3つ目の都市軸で挙げ

させていただいております。これについては環境でありますとか、その他諸々の非常に重要な役目を果たしてございますのでこれも都市軸というような中で盛り込ませていただきました。

それからゾーンであります。ゾーンにつきましては北部山間ゾーン、山麓農工ゾーン、それから市街地複合ゾーン、中山間ゾーンとこの4つを挙げさせていただいております。北部ゾーンにつきましては和泉山脈の主稜線と南の農地を北限とした地域を指してございます。観光でありますとか林業の振興、このような拠点として整備を図っていきいたいというようなことを記載してございます。それから山麓農工ゾーンにつきましては今の北部山間ゾーンと後で説明申し上げます市街地複合ゾーンの間のところということで位置づけをしていきいたいと考えます。この地域につきましては市民農園や観光農園等農業レクリエーション機能を充実し、農の複合化を図りますということも書かさせていただいております。それから京奈和道のインターチェンジ、粉河インターと打田インターが一応予定されてございます。これについてもそれらを起爆剤としまして観光でありますとか、農業の方に発展をさせ複合的な観光レクリエーションゾーンも含めて新拠点として整備を考えていきいたいという風に考えます。それから市街地複合ゾーンにつきましては紀ノ川以北とそれと貴志川、桃山の平坦部この地域を市街地複合ゾーンということで考えていきいたいと思います。ここの文面の中の範囲では桃山に大規模な工業団地がございまして、これについての位置づけがされてございませんので、工業地を有するなどというような形で追加をして記載していきいたいと考えております。最終的には都市計画、農業振興計画に基づいて土地利用を図っていく上で開発を進めていくということでご理解をいただきたいと思います。それと最後なんですけれども、桃山東部、それから粉河の南部というような所を中山間ゾーンとして位置づけしてございます。桃山町の奥安楽川地区、それから粉河町の鞆淵地区と地域名は入れてございませんけれどもその地域を中山間ゾーンというようなことで設定をさせていただきたいと思います。この地域につきましては山林でありますとか、果樹栽培が中心に行われておりますけれども、主要県道の整備でありますとか、交通が非常に不便と、また高齢化が非常に進んでいるということで、道路の整備でありますとかコミバスの運行、そういう風なものを取り入れて更に都市からの生活者を引っ張ってきた定住促進でありますとか、レクリエーション地とこのような位置づけで地域の活力を推進していくよう考えていきいたいと思います。以上です。

議長
(丸井幸次)

はい、ありがとうございます。ただ今事務局の方から新都市の構造についての説明があったわけなんですけれども、ゾーン計画を示していただいたわけです。これについて何かご意見ございませんか。ないですか。武部委員何かないですか。はい、どうぞ。ちょっとマイク来るまで待つてよ。

委員 (千田弘)	すいません、先ほど中山間ゾーンで奥地開発等々事務局の方から説明ありましたけども、もう少し具体的にその世界遺産は別としまして、道路網の整備含まれてますっていうんじゃないしに、もっと具体的にどういう風に現在やったら県道かつらぎ桃山線についてもどういう風な形でこの南北交通軸のあたりでもうちょっと明確に表現していただきたいなと感じておりますので、そのところよろしく。
議長 (丸井幸次)	はい、今事務局わかりました。はい。そういうことも具体的に含んでいきたいとこのように思います。他にないですか。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	ちょっとすみません。今千田委員の方から具体的に南北軸の中へ中山間ゾーンを入れて下さいというようなご意見であったんですけども、軸については川であるとか道、そういう風なものを主に考えてございます。国道424号と泉佐野打田線、これが縦の流れを考えていくという事でご説明しました。この中山間ゾーンの所の主要道というのは県道かつらぎ桃山線そこの位置づけが非常に難しいかなと、ゾーンとして中へ入れていけるかとは思いますが、南北交流軸の所は例えばかつらぎ桃山線をダイレクトに424号につなげるとかそういう風な表現はできますけども、あえてその県道かつらぎ桃山線を主軸の中へ入れていくというのはちょっと難しい考え方になってくるんじゃないかなという風に思いますけども。
議長 (丸井幸次) 委員 (千田弘)	どうですか、はいどうぞ。 それ主軸っていうんじゃないしに、この表現だけで見れば単なる424号が貴志川から海南へ行くとまだそれであれば一方的に素通りしてしまうような感覚を感じますんで、国道424号へ接続してそういう中山間の開発、これからの色々な方面で活用していくというような形に何とか表現をお願いしたいと思います。
事務局 (計画課長 岩坪純司) 議長 (丸井幸次)	はい、あの検討してみます。 一応事務局の方で検討しますのでそれでよろしいですか。他に、どうぞ。
委員 (河上泰三)	すいません、先程来各委員さんからも意見でてるんですけども、京奈和自動車道とか今も出ましたけど424号の道路が結構クローズアップしてこの文章の中にたくさんでてるんですけども、この前のこの委員会の視察で回った打田町の北勢田の工業団地と桃山の工業団地、また県の工業団地も第3か第1かに、確か北勢田にもありましたよね。こちら

議長 (丸井幸次)	辺の部分が新都市の構造の中に入っていないように思うんですけども、ひょっとして先ほども打田の藤永委員さんとちらっとトイレの方で話をしたんですけども、非常に特徴が出にくい例えば静かな豊かな田園の風景にして農業施策は当然の事ながら、色んな形の新市の模索をしていくというイメージが強いわけですけども、逆に5町新市になると新しいインパクトを持たす為にも逆に例えば打田町から大阪の上之郷にインターを抜いてですねそこら辺でその土地がかなりこの山麓ゾーンを書いてるわけですから、そういう関係の今工業用地ももちろん売れ残ってる部分もあると思うんですけど、そういうところの利便性等今後それを活用していただく部分というのをこの新しい5町の新市には非常に意識としてもっとかなければいけない部分かなという風な気がしますんで、これちょっと意見として付け加えさせていただきます。 あの意見として入れさせてもらったらよろしいですか。はい、じゃあ事務局今の河上委員の意見についても入れておいて下さい。他にございませんか。ないですか。ではなければ次の新市発展プロジェクトの方の説明をお願いします。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、27ページ、28ページ、29ページということで新市発展プロジェクトというところをご説明いたします。この発展プロジェクトは一応リーディングプロジェクトというような形で先ほどから説明してございます、将来を実現するための基本的な考え方をふまえて更にこの地域を発展させるためにはどういうことが必要かということで特出した形のものをつけていくというのが通常的なやり方でございます。これにつまましていきいき人・まちプロジェクトときらきら土・水・緑プロジェクトというような2つの項目を一応サンプル的に挙げさせていただいてということでご理解いただきたいと思います。 いきいき人・まちプロジェクトこれにつまましては当然まちを活性化させるためには人々が元気であると、健康で快適な生活ができるようなまちづくりをしていかなければならないと、また助け合いの気持ちも非常に大事でございますのでそういう風なことを主眼におきまして、3つの項目をつけてございます。一つ目につまましてはいつでもどこでも学べるという生涯学習の重要性、それとやはり健康であってこそいきいきとした生活ができるということで健康づくりでありますとか体づくり、こういう項目を挙げております。先ほどからも行政と住民の方の協働というようなことも重要であるということで申し上げてございますので、コミュニティ活動でありますとか高齢者の社会参加、社会貢献、生きがい施策とこういうところも必要になってくるんじゃないかなということで、一応この3点を挙げさせていただいてございます。これについては委員の皆さん色々ご意見あるかと思います。もっと重要なところが欠落してるんじゃないかなというようなご指摘もありますけれども、今

	回一応サンプルというような位置づけで考えていっていただきたいという風に考えます。 それからきらきら土・水・緑プロジェクト。これにつきましては、産業を高めていくという、またゆとりのある生活が送れるとこういうようなことを主眼におきまして農業関係を中心に、農業関係と環境の二つの項目を中心に挙げさせていただいてます。農業、この地域非常に果樹栽培が盛んでございますので、果樹栽培の関係それから観光ともちょっと関連してくるんですけどもフルーツパークであるとか、滞在型市民農園、こういうような施策、それと先ほど上野委員からもご指摘がありましたように交流、それと中山間部における農林業のあり方、また今後の地域の活力をつけていくための施策、こういう風なものを挙げてございます。それと環境ですね、水と緑の保全整備ということで紀ノ川、貴志川こういう風な大きな川がございます。それらを活用した施策、それから歴史文化こういう具体的には事業名は入れてございませんですけども、事業を展開していったらどうかということでご提案させていただきます。 それとこの中に入れて良いかどうかはちょっと判断しにくいかと思います、でこの間の地域の課題でありますとか問題点、その中でも大きな項目がございます。緊急課題がございます。というのは公共下水道、ゴミ処理関係、それとこの5町の地域を一つの地域としていく中でやはり道路の整備は必要になってくると、このような緊急な課題、項目をこの中へ入れていくか、入れていくべきか、入れていかないかということも含めて委員の皆様のご意見を頂戴したいと考えます。以上です。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。新市発展プロジェクトについて何か。今事務局から説明がありました。これについて何かご意見、ご質問がございませんか。はい、どうぞ。宇田委員どうぞ。
委員 (宇田寛)	この中でいつでもどこでも学べる生涯学習社会の形成という項目があるんですが、その地域なり、今度の新市になってもですね一番大事なことは将来に向かってどうあるべきかということだと思っんですよ。その場合にやはり、幼稚園、小学校、中学、高校現在5町の中にはその施設がありますね。そういう学校教育のあり方をどうするんか、極端な事いうたら小、中学校統一した学校にして9年間を一連にした教育をすることでですね、何かそういうような特異な教育とか、しかも小学校でも、中学校でもつめ込み教育だけでなしに色んな社会へ出て行っの教育とかそういうことをもっと強調したらどうかなと思っんですけども。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。何か。
事務局 (計画課長)	はい、やはり人づくりを考えていく上で生涯学習、それからもっと大事なことは今の生徒、児童こういう方がのびのびと生活できるというこ

岩坪純司)	とで、地域のことを思って例えば活動するとか、そのような事も今後非常に大事ではないのかなという風に私も考えてます。そうした子どもがやっぱりこの5町を愛し、それが発展していけば当然外へ出て行くんじゃないしに地域の中にとどまるというような事にもなりますので、宇田委員の方からのご意見も参考にさせていただきまして、それらの文言を盛り込むかどうかを事務局で考えていきたいというように考えます。
議長 (丸井幸次)	はい、学校教育についても何か計画があれば一つ考えて下さい。ほかにございませんか、はい、どうぞ上野委員。
委員 (上野富一)	いきいき人・まちづくりプロジェクトの中で、健康で活力あふれたからだづくりの支援の中です、今3つ書いてあるんですけどその中で青少年なり、子どもらにやっぱりそういうスポーツ少年団なり、スポーツ教室なりいうかな、そういう部分の子どもたちのスポーツに対しての充実っていうんですかねそういう部分ももっと図っていただきたいなと思います。特に小さいころから小学校低学年のころからですねできるだけスポーツに携われる機会をたくさんの子どもの機会を与えてあげたい。その中で成長していく中で中学校、高校とやっぱり体づくりがどんどんしていけるよう小さいころから、やっぱり色々中学校入ってもクラブ入らないとか色んな子どもたちがたくさんいるので、できる限り青少年なり小さい子ども達にスポーツを取り組める環境っていうのかな、そういうスポーツがあるのに、このスポーツがないとかいうんじゃないしに、色んなスポーツを体験できる、バレーボールもでき、サッカーもでき、野球もできそういう色んな体験ができるようなスポーツの振興の充実をやっぱり図っていただきたいなという風に思います。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。どうぞ。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、あの十分具体的なご意見でございますのでそれについても検討を加えていきたいという風に考えます。
議長 (丸井幸次)	上野委員の言われてることも十分わかりますので、事務局の方で一回どのような形で挿入していくかということを検討してもらいます。他にないですか。はい、どうぞ。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	先ほど私の方からこの2つのプロジェクトという事で一応サンプル的に出さしていただいたというようなご説明をしたかと思います。当然非常に重要なところでございます。これが後の基本計画ですね、基本計画の方に関連してきますので、この辺の所は十分ご協議いただきたいという風に考えます。

議長 (丸井幸次) 委員 (上野富一)	他にないですか、はい、どうぞ。上野委員どうぞ。 もう一つなんですけど、きらきら土と水、緑のプロジェクトという中で3つ挙げておられるんですけど、僕はこの農林業の自家推進ということで一番最初にグリーンツーリズムっていうのかな、都市農村の交流っていうそういう部分をやっぱり一番にもってきてもらいたいなという風に考えます。果樹を軸とした高品質、安全な農業の展開、農産物のブランド化というよりも、やっぱり一つのミカンやったらミカンのブランドとかじゃなくて、地域を売る部分っていうのがやっぱり大事になってくるので、そういう部分をもっと考えていただきたいなという風に考えます。やっぱりグリーンツーリズムっていうのは全国的な流れの中で都市とのそんな関わりとか、それを地域を挙げていく部分では大変重要な部分であるし、観光とか色んな部分全部含めていると思うので、これをやっぱり一番に積極的に、国の方もそういう施策も出てると思いますので、やっぱりグリーンツーリズムについてはもう少し色々勉強していただいたらいいのかなと思います。フルーツパークの整備とかそういうのは後でという風に思います。やっぱり滞在型で市民農園、また滞在型と違って大阪とも近いので日帰りの市民農園とか色んな部分の考え方はあると思うんです。まず大きな中でやっぱりグリーンツーリズムっていう部分をできるだけこうした都市との交流の部分で重要視していただきたいなと思います。
議長 (丸井幸次)	はい、ありがとうございます。事務局それについて何かご意見ありますか。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、そのように取りまとめていきたいと思います。大変おおざっぱな形でまとめてございます。果たしてリーディングプロジェクトというような位置づけの中でこんな感じでいいのかなということを非常に、ものすごく悩んでますのでもし他に名称も含めてもっとこれを強調していく、これはどうかなと、このような意見また次回に。
議長 (丸井幸次) 委員 (河上泰三)	そうですね、河上委員何かございますか。はい、どうぞ。 今ちょっと最後に次回っていう言葉でたんですけど、先ほど事務局の説明やとここの部分大変重要で皆さん方委員会で議論して下さいという風な意味合いで発言されたんかなと思うんですよ。そうなるとその何回委員会開こうともそれは当初僕の方は最初にですね、必要であれば全然委員会に参加するのはやぶさかではないという風に発言をさしていただいたんで、それはいいんですけどその具体的にいつまでこれを策定をせないかんかとかっていうスケジュールとかもこの委員会で議論するとなると必要になってくるんじゃないかなと思うんですけど。

議長 (丸井幸次)	はい、確かに河上委員言われるとおり、基本構想が出来上がらないと次の基本計画に入っていきません。だから基本構想はいつまで仕上げなければいけないかっていうこと事務局の方でちょっと答えていただけますか。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	第1回の小委員会の中で小委員会スケジュールというような形でご了解いただいております。5月の18日、今日なんですけども二回の中には柱立てですとかそういう風なものも検討していただき、6月の14日の予定では計画、今のたたき案を示させていただいて協議していただくということになってございます。そのようなスケジュールの中でちょっと早い段階で、皆さんの方にご検討していただいておりますので6月の14日予定させていただく中で、修正できるところは修正した、もう一回蒸し返すというのは語弊があるかと思いますが、再度チェックしていただくということになろうかと思います。その時にできましたら今申し上げたこの2つのプロジェクトしか挙げてございませんですけども、他に今までの将来構想を実現するための考え方から波及させてくる発展プロジェクト、これを見つけていっていただきたいなというように考えてございます。だからスケジュール的には若干速いペースで進んでございますので、その点ご説明させていただきます。以上です。
議長 (丸井幸次)	次回、後からまた言うつもりでしたんですけども、6月14日にももう一回この基本構想について今日議論していただいたことを修正をいたしまして、それをまた皆さんにお諮りしたいと思います。それまでにこの発展プロジェクトについてこういう事も入れたらどうかということでもしご意見があれば、次回の時に取り組んでいきたいとこのように思います。今、スケジュールを見てみますと、7月の第4回の小委員会あたりでも最終的な基本構想について決定できればいいかなと。それでいいんですね、それぐらいやったら十分ですね。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、7月の協議会の中でとりあえず1章、2章のどこまでは素案というような形でとりまとめができたらいいなという風には考えております。それと6月はちょっと無理かと思いますが、7月には現在各町の方で新市の事業の洗い出しいただいておりますので、そういう具体的な施策についても考えていっていただきたいなというようなスケジュールでございます。以上です。
議長 (丸井幸次)	はい、そういうことですんで、次回まで新市発展プロジェクト見てもし何か他にこういう事も入れたらいいんじゃないかということがあれば、また次回言っていただければいいと思います。

委員 (岡田邦夫)	実はそのプロジェクトの件なんですが、主要事業についてですね、いったいどこまで明細、どこまでそういう意見を述べさせてもらったらいいか。例えば保健医療福祉の問題でもいっぱいあると思うんよ。ただその概ねな形の推進事業で意見を述べさせてもらったらいいんか、先ほど色々意見も出ておりましたけども、どこまでの明細でですね主要事業のタイトルを作るんかっていうのがそこがちょっと難しいですね。
事務局 (計画課長 岩坪純司)	はい、岡田委員おっしゃられるように非常に難しいかと思います。ただこの段階では例えば、何々事業とこういうようなものまでつっこんだ格好の事は考えてございません。主だった事業については主な主要施策、それも具体的に何々事業というところは出しにくいかと思います。そうしたことからこの構想の記載はかなり大ざっぱって言うたら変になるんですけども、大きな形でとらまえていただきたいなという風に思います。だから具体的何々事業とこういうようなものは構想のここにはそぐわないということも併せてご報告いたします。
議長 (丸井幸次)	基本計画の中で、岡田委員そういう具体的な話。基本構想ではこの保健医療福祉の連携による健康づくりと、これは基本構想ですんで。今度それにつっこんだことは基本計画の中へ入れていくとこういう事務局の意見です。そういうことです、それでいいんですね。
委員 (岡田邦夫)	先ほどのね、色んな質疑の流れの中で、教育問題にしる道路網の問題にしる細かい質疑したら検討するとか色んな形で回答あったようですね、一体どこまでそういう風な細かい明細まで入れるべきか、ただ事業として今おっしゃってるような形でやるんか、その中に含んだ形のもんをいうんか、そこらのとこだけで聞かしていただかんと各色んな形の部門がありますので、そこまで入り込んでこの施策を作っていくもんかどうかをねちょっと聞きたかったんです。
議長 (丸井幸次)	当然意見出してもらって、これは基本構想の中に入れるべきものか、或いはもうこれは基本計画の中に入れるべきものか、ということがまた事務局の方で判断してもらいます。だからそういうことも考えなくてもこういう事を思っていると、こうしたんだということがあればどんどん意見を言ってもらって、それを基本構想の中へ入れていくか、基本計画の中に入れていくかっていうのは、また次の議論になってくると思いますんで。どんなことでも新市発展プロジェクトで入れていくべきだということがあれば言ってもらったら結構だと思います。よろしくお願いします。 他にご意見ございませんか。ないですか。本当に長時間にわたりまして、貴重なご意見、ご提言ありがとうございました。今日出されたご意見等は集約いたしまして事務局で基本構想の修正作業を行っていただき

委員一同 議長 (丸井幸次)	たいと思います。誠に短時間で大変ですがよろしくお願い申し上げます。 それでは会議次第第6番の次の開催日ではありますが、次回は6月14日1時半から打田町保健福祉センターで開催する予定となっておりますが、6月は各町議会月でもありますので、各町の日程調整を行いましたが、3町で議会開催がこの日組み込まれております。こうしたことから6月14日で開催が可能ですが、時間を誠に申し訳ないんですけども3時に変更させていただきたいと思います。3時ぐらいまでには各町の議会も終了しているということをお聞きしております。委員の皆さんには3時でご都合どうでございますか。日はもう変更ございません。1時30分の開催を3時という事でしていきたいと思います。よろしいですか。 「はい。」の声あり。 はい、ありがとうございます。では第4回の新市建設計画策定検討小委員会を6月14日月曜日、午後3時から打田町保健福祉センター3階大会議室で開催いたしたいと思います。 協議事項は今日と同じく基本構想の素案の協議等、それから住民意識調査の結果が出てと思いますので、そのことについても協議をしていきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。 その他委員の皆さん、また事務局の方で何かございませんか。委員の皆さん何かありませんか。ないですか。事務局も特にないですか。 では、ないようでございますので会議はこれで終わりたいと思います。本当に本日は長時間にわたりありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。ご苦労さんでございます。
----------------------------------	---